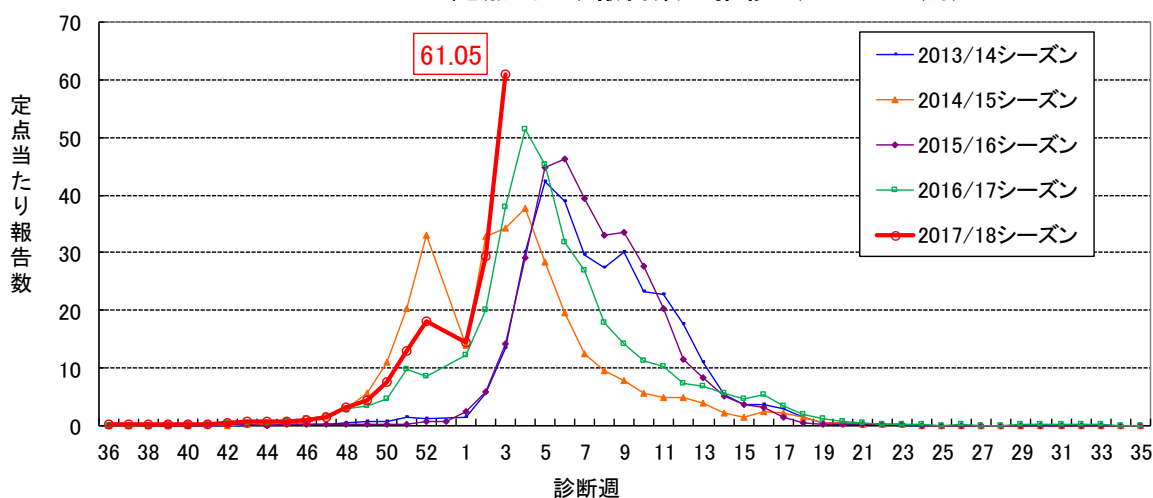


## 【今週の注目疾患】

### 【インフルエンザ】

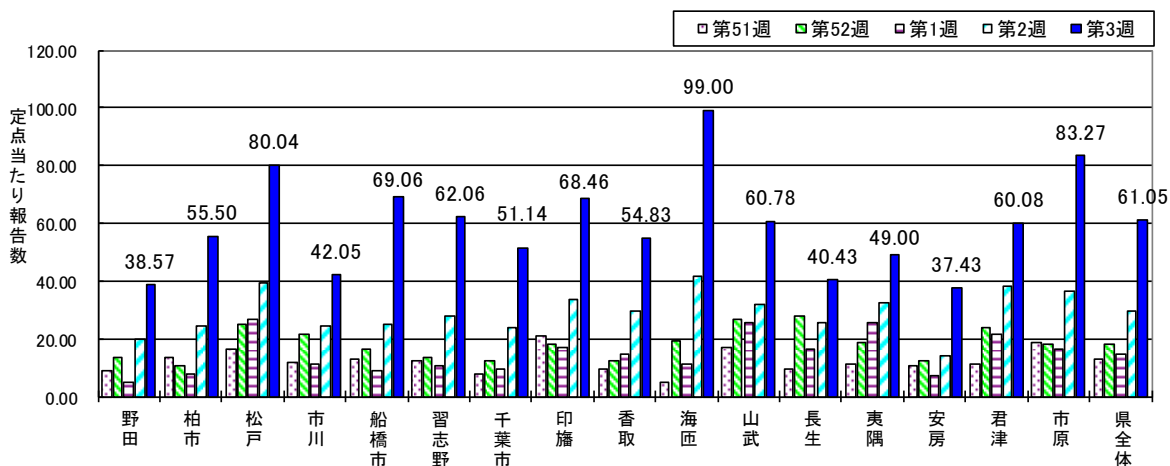
2018年第3週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数は61.05(人)となり、国が定める警報開始基準値の定点当たり30を超えた(図1)。このため2018年1月24日、千葉県は県内においてインフルエンザの警報を発令した。第3週に記録した定点当たり報告数61.05は、1週間当たりの定点当たり報告数として、感染症法に基づく現行の感染症発生動向調査が始まった1999/2000シーズン以降で最大である。

図1: 2013～2018年第3週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数の推移 (シーズン別)



県内 16 保健所管内(千葉市、船橋市および柏市含む) 全てにおいて前週より報告が増加し、全保健所管内で定点当たり報告数 30 を超えた。県レベルでの定点当たり報告数(61.05)を超える保健所管内は、報告の多い順に海匝(99.00)、市原(83.27)、松戸(80.04)、船橋市(69.06)、印旛(68.46)、習志野(62.06)、山武(60.78)であった(図2)。

図2: 直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数の推移 (保健所別)



年齢群別報告割合では、5～9歳(31.2%、前週21.5%)、10～14歳(19.2%、前週12.7%)、0～4歳(13.7%、前週16.1%)が多かった。第3週の県内の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果12,524例の報告は、A型4,028例(32.2%)、B型8,438例(67.4%)、A and B型18例

(0.1%)、A or B 型 40 例 (0.3%) であった。A 型、B 型ともに前週、前々週と比較し報告は増加しているが、B 型の報告の増加がより大きく、報告全体に占める B 型の割合は増加傾向にある。第 3 週時点で 2017/18 シーズン全体においても B 型の報告が過半となり、2017/18 シーズン合計では、31,961 例中 A 型 15,131 例 (47.3%)、B 型 16,683 例 (52.2%)、A and B 型 42 例 (0.1%)、A or B 型 105 例 (0.3%) となった。

基幹定点 (9 医療機関) からのインフルエンザ入院サーベイランス報告においては 92 例の報告を認めた。こちらも現行の入院サーベイランスが開始されて以降、週当たりの報告数としては最大である。年齢群別では 80 歳以上 31 例、70 代 13 例、60 代 9 例、50 代 11 例、40 代 4 例、10 代 1 例、5～9 歳 10 例、1～4 歳 8 例、1 歳未満 3 例となっている。

近年 (2007/08 シーズン以降) の県内におけるインフルエンザの報告は、AH1pdm09 が出現した 2009/10 シーズンを例外として第 4～6 週のいずれかの週がピークであった。また、第 3 週の定点当たり報告数は第 2 週のそれに対して 2.07 倍 (第 2 週は第 1 週に対して 2.03 倍) とわずかではあるが更に増加傾向にあるため、報告は今後も増加する可能性があり、手洗いの励行、マスクの着用や人混みをさけるなどの予防策を徹底することが重要である。